

泉

若葉学習会専修学校報 No.643

2021 JANUARY



放課後に笑顔溢れる体育館 近づく引退受験の合図

米子校舎 高校2年 赤井 小乃花

君たち 僕たち



米子校舎 中学2年
藤本 幸樹さん

今まで若葉の講習には必ず参加してくれていましたが、三度の飯より好きなサッカーのため通年クラスは断念してしまいました。しかし、十月からついに若葉に通学することになりました。入学した動機をたずねると「頭がよくなる」とスポーツも頭を使つてできるような気がするからです。」とすべてはサッカーのために勉強をがんばる決意を語ってくれました。授業が終わって帰るとき、自分の使った机とイス(時にとりの机も)を手で掃除してから帰ります。徹底的に染みついた礼儀の良さは彼のサッカーへの情熱と努力を物語っています。持久力にも自信があり、三キロ走ではなんと驚異の九分四十五秒。大人でもびつくりするよくなタイムです(十分切れればすごいと言われています)他中の陸上部の生徒が「化け物です。」と驚愕するのもうなすけません。サッカーは小学一年生から八年間続けていて、夢はもちろんプロサッカー選手。今年、惜しくも全国大会出場を逃した東高ですが、彼が二年後きつと全国大会出場の大役者となることでしょう。

(担当 角)



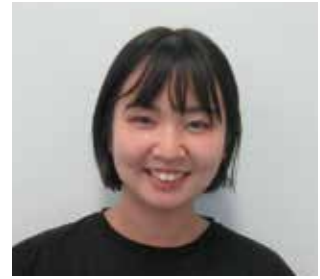
松江校舎 中学3年
朝倉 海翔さん

今回で紹介するのは松江立第四中学校に通う中学三年生の朝倉海翔くんです。彼は中学二年生のときに若葉に入塾し、若葉歴はまだ二年もあります。ただ成績は学校の先生も驚くほど伸びていて、まわりに良い刺激を与えてくれています。成績アップの理由を聞くと、その一つに「文房具」をあげてくれました。海翔くんは、文房具マニアで、現在使っているシャープのシャープペン一本2200円!それを使っているときは、勉強も苦ではないそうです。私も同じブランドのPIRLOTTのシャープペンですが、価格は1000円(笑)人によって何がやる気スイッチになるかわからないものですね。

そんな彼の将来の夢は、鉄道関係で働くこと。幼い頃から鉄道ファンで、プラレールを集めていたそうです。昨年は、東海道新幹線700系の引退が決まり、それに乗るために友だちと二人で愛知まで旅行に行きました。旅行費は全て自腹(驚)お年玉を使い果たしてまで行くこの想いは本物です。これからも夢に向かって頑張ってください!

(担当 古徳)

卒業生はいま!



名古屋大学医学部
保健学科看護学専攻3年

菊留 小都 さん

office&campus



倉吉校舎は開校二〇年近くになります。今月はその倉吉校舎の卒業生を紹介します。小都さんは三朝中学校から倉吉東高校に進学し、学術コースで学んだのち、現在の大学に入学しました。今は小児看護の研究室で、どんな卒業論文を書こうか思案中とのこと。今年はコロナ禍で、実習が思うように進まないことなど近況をたくさん報告してくれました。

小都さんとの出会いは今から十年前、彼女がまだ小学五年生の時でした。家族の都合で迎えが遅く、小学校の頃はいつも居残りして勉強をがんばっていました。「自分だけが居残りだと淋しく感じたこともありましたが、その勉強量が自信となりました。」と当時の思い出を語ってくれました。

コロナ禍で大学に行けないとモチベーションが下がると言っていた彼女ですが、将来は、小児を専門にしていきたいという明確な目標を持っていきます。小学生の頃から「病院で働きたい」と将来の夢を語っていた彼女。その夢に向かい努力し目標を達成していく姿勢が彼女の魅力であり、凄さなのです。

元々小学生の頃から落ち着きのある生徒でしたが、今の彼女はそれよりさらに、私より落ち着きはあったししゃべり口調で、どっちが年上か、なんだか私の方が緊張しました(笑)。きっと彼女の冷静さは、院内の人々の不安を和らげ、頼りにされる存在となるでしょう。

医療現場はコロナ禍で大変だろうけど、がんばれ!こっさん。

(担当 濱)

最後の統一模試! さあ、受験イヤーに突入だ!



十二月六日(日)に、本年度第三回鳥取県統一模試が県下各地で一斉に実施されました。ここ本校米子校舎でも多くの中学三年生が、八教室に分かれて間隔を空けて、最後の統一模試に挑みました。

数日後、受験生に感想を聞きました。

- 自分の課題を見つけていくことができた。これを踏まえて次に向けて準備していきたいです。(福米中・吉川峻くん)
- 時間があつという間に過ぎて自分はまだだだと痛感した。この冬休みに総確認をしたい。(加茂中・澤田若菜さん)
- 結果が出たら、自分の現状を確認し、受験への判断材料として活用していきたいです。(東山中・足羽奉大くん)
- 一言で言うとなかなか!数学や理科の応用問題を解く数はまだ足りていないと実感した。(大山中・川上陽くん)
- 皆これからの課題が見えたようです。私立入試直前に実施する最後の腕試し若葉模試は一月九日です。



(担当 門脇)

学園NEWS

米子校舎

職員随想

AIという名の答え

小西 芳彦



「兄達は頭が悪いから東大へ行った。私は頭がいいから将棋指しになった。」あるトッププロの生前の言葉だ。リップサービスだとは思いますが、あながち間違っていない。プロ棋士への長く厳しい道のりは「奨励会」と呼ばれる養成機関への入会から始まる。それにはプロの先生の推薦が必要であり、試験もパスしなければならぬ。入会後は全国の強豪たちとのぎを削り、昇級・昇段を重ね、最後の砦である3段リーグを突破できるのは1年でたったの4人だけ。若き才能を潰さないための配慮の意味もあってか、その挑戦も26歳までという厳しい年齢制限が設けてある。ちなみに私はアマチュア5段の免状を持っていて、地元安来の大会では優勝することもあるが、奨励会の基準ではおそらく一番下の6級程度。それだけプロの領域は異次元だ。その中でもトップを走られる先生方には、まさに「天才」という言葉がふさわしい。

将棋の世界において、AIと人を比較する時代は数年前に終わりを迎えた。万に一つがないとは言わないが、トッププロでも最新のAIには敵わない。先人たちの研鑽の軌跡であり、王道の手順とされてきた「定石」も、AIによっていくつも覆され、「勝てない戦法」と烙印を押されたものさえある。序盤の研究を怠ると、早々にリードを奪われチャンスなく敗れることも度々ある。将棋を指す人たちは、自らの棋力を向上させるためにAIを利用するのであつて、強さを比べる対象とはみていない。強くなり過ぎたAIは、人間の思考に対する「答え」としての位置づけにあるのだ。

史上最年少で2冠王となった藤井聡太氏の活躍で、将棋の世界がニュースや新聞で取りあげられる機会が増えた。もともとインターネットでプロの対局の様子をだれでも手軽に観ることができたから、観戦を専門とする「観る将」なるものが現れた。将棋の楽しみ方の自由度が増し、お昼ごはんのメニューや対局に臨む服装、寝癖の形までもが注目されて、時には記事にされる。もちろん将棋と関わる手段が多様化し、多くの人が知っ

てもらう機会が増えたこと自体は喜ばしいが、それによる弊害があるのだ。もまた事実はAIの発達が大きく影響している。

将棋は逆転のゲームだ。天才たちが捻り出した、相手のミス誘発させて勝利を引き寄せる「勝負手」を、AIは無慈悲に否定する。それをいいことにマウントを取り始める人がネット上には数多くいる。なんとも悲しいことである。時間切迫の極限の緊張感の中で、人間真理の読み合いからくる大逆転劇は、本来は罵倒されるものなどでは決してなく、人の心に感動を与えるものだ。AIが指す完璧に近い無機質な将棋より、そちらの方がずっとおもしろい。



多くの人が知っ